

施策評価シート

施策等名称	強靱:災害に強く強靱でしなやかな水道	体系番号	0501011102
		主管課	水道課

1 施策基本情報

現状と課題	安全で安定した水道水を利用者に供給するために、施設の維持管理や計画的な更新が必要である。茅野市水道事業は水道管路約675km、配水池49箇所等の施設を保有しているが、老朽化や耐震性が低い施設が多く存在する。地震等の自然災害等にも安定供給できるよう、施設の更新と共に耐震化を図る必要がある。
めざす将来像 (あるべき姿、基本的な考え方)	今後発生する恐れがある地震やその他災害時においても、確実に安心かつ安定した水を供給できるよう水道施設の更新に伴い耐震化を図る。すべての施設の耐震化を図ることが理想であるが、避難所や病院等の重要度の高い施設への供給施設を優先して耐震化を図る。

施策指標	指標名称	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値	
				2027年度目標値	
①	基幹管路耐震化率	耐震管延長/基幹管路延長×100(%)	9.40	17.20	25.00
				21.30	30.00
②	配水池耐震化率	耐震対策された配水池容量/配水池容量×100(%)	12.60	21.30	30.00
③					

施策の柱 1	名称	災害に備えた安定供給の確保	主管課	水道課			
	詳細	地震等の災害時においても水道水を安定的に供給するため、水道施設の耐震化を図る。特に、避難所や病院等の重要給水施設については、震災直後においても水道水が供給できるよう施設の耐震化を図る。					
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分	
	1	基幹管路耐震化率	耐震管延長/基幹管路延長×100(%)	9.40	17.20	1 老朽管更新事業	実施
					25.00	2 基幹配水地更新事業	実施
	2	配水池耐震化率	耐震対策された配水池容量/配水池容量×100(%)	12.60	21.30	3	
					30.00	4	
	3					5	
						6	
	基本政策間連携						

施策の体系	施策の柱 2	名称	迅速な応急対策と復旧体制	主管課	水道課		
		詳細	地震時等の災害時においても、迅速な給水体制を確保するために、危機管理マニュアルの検討や災害時を想定した訓練の実施。				
		まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分
		1				1 上水道施設の維持管理事業	検討中
						2	
		2				3	
						4	
		3				5	
						6	
		基本政策間連携					

施策の柱 3	名称		主管課				
	詳細						
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分	
	1				1		
					2		
	2				3		
					4		
	3				5		
					6		
	基本政策間連携						

施策等名称	強靱:災害に強く強靱でしなやかな水道	体系番号	0501011102
		主管課	水道課

2 指標等の推移と変動要因

体系区分	成果指標名	計画策定時	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
指標No.		中間目標値	実績値 / 達成率(実績値÷目標値)				
施策	基幹管路耐震化率	9.40	11.00	12.00	13.00	14.00	
		17.20	63.95	69.77	75.58	81.40	0.00
変動要因等	2018年度	北大塩中区配水池築造と合わせた米沢地区の基幹管路整備及び市内既設管布設替により耐震化が進んだ。					
	2019年度	米沢、玉川地区の基幹管路整備及び市内既設管布設替により耐震化が進んだ。					
	2020年度	米沢、蓼科地区の基幹管路整備及び市内既設管布設替により耐震化が進んだ。					
	2021年度	米沢、蓼科地区の基幹管路整備及び市内既設管布設替により耐震化が進んだ。					
	2022年度						
施策	配水池耐震化率	12.60	21.00	21.00	21.00	30.00	
		21.30	98.59	98.59	98.59	140.85	0.00
変動要因等	2018年度	北大塩中区配水池の整備が完了し、耐震化容量は大幅に増加した。					
	2019年度	北大塩中区配水池の整備が完了し、耐震化容量は大幅に増加した。					
	2020年度	埴原田配水池の整備に着手。2021年度完成予定につき、変動なし。					
	2021年度	埴原田配水池の整備が完了し、耐震化容量は大幅に増加した。					
	2022年度						
柱1	基幹管路耐震化率	9.40	11.00	12.00	13.00	14.00	
		17.20	63.95	69.77	75.58	81.40	0.00
変動要因等	2018年度	北大塩中区配水池築造と合わせた米沢地区の基幹管路整備及び市内既設管布設替により耐震化が進んだ。					
	2019年度	米沢、玉川地区の基幹管路整備及び市内既設管布設替により耐震化が進んだ。					
	2020年度	米沢、蓼科地区の基幹管路整備及び市内既設管布設替により耐震化が進んだ。					
	2021年度	米沢、蓼科地区の基幹管路整備及び市内既設管布設替により耐震化が進んだ。					
	2022年度						
柱1	配水池耐震化率	12.60	21.00	21.00	21.00	30.00	
		21.30	98.59	98.59	98.59	140.85	0.00
変動要因等	2018年度	北大塩中区配水池の整備が完了し、耐震化容量は大幅に増加した。					
	2019年度	北大塩中区配水池の整備が完了し、耐震化容量は大幅に増加した。					
	2020年度	埴原田配水池の整備に着手。2021年度完成予定につき、変動なし。					
	2021年度	埴原田配水池の整備が完了し、耐震化容量は大幅に増加した。					
	2022年度						
			#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
変動要因等	2018年度						
	2019年度						
	2020年度						
	2021年度						
	2022年度						
			#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
変動要因等	2018年度						
	2019年度						
	2020年度						
	2021年度						
	2022年度						

施策等名称	強靱:災害に強く強靱でしなやかな水道	体系番号	0501011102	
		主管課	水道課	

3 評価・改革改善

(単位:円)

項目		2018年(前年度比)		2019年(前年度比)		2020年(前年度比)		2021年(前年度比)		2022年(前年度比)		
投資額	事業費(円)	1,367,185,108		652,328,576	0.48	632,532,703	0.97	909,794,524	1.44	883,357,000	0.97	
	うち一財(円)											
	増減理由 (一般財源前年度比±10%以上の場合に記載)			北大塩中区配水池の主工事が完了したため、事業費が減額になった。								
進捗評価		おおむね順調		おおむね順調		おおむね順調		おおむね順調				
総合評価	主な取組内容や成果	<ul style="list-style-type: none"> ・基幹管路については、北大塩中区配水池～埴原田配水池への送水管工事、中央病院への送水管工事を実施。 ・基幹配水池については、北大塩中区配水池築造工事を実施。 		<ul style="list-style-type: none"> ・基幹管路については、北大塩中区配水池～埴原田配水池への送水管工事、中央病院への送水管工事を実施。 ・基幹配水池については、北大塩中区配水池に関わるすべての工事が完了。 		<ul style="list-style-type: none"> ・基幹管路については、北大塩中区配水池～埴原田配水池への送水管工事、蓼科湖周辺の送配水管工事を実施。 ・基幹配水池については、埴原田配水池築造工事を実施。 		<ul style="list-style-type: none"> ・基幹管路については、北大塩中区配水池～埴原田配水池への送水管工事、蓼科第一配水池配水系統の配水管工事を実施。 ・基幹配水池については、埴原田配水池築造工事が完了。 				
	課題	管延長及び老朽管延長が長いこと、全管を整備するには年数が必要であり、今後は法定耐用年数を超える管路が増える傾向にある。		管延長及び老朽管延長が長いこと、全管を整備するには年数が必要であり、今後は法定耐用年数を超える管路が増える傾向にある。		管延長及び老朽管延長が長いこと、全管を整備するには年数が必要であり、今後は法定耐用年数を超える管路が増える傾向にある。		管延長及び老朽管延長が長いこと、全管を整備するには年数が必要であり、今後は法定耐用年数を超える管路が増える傾向にある。				
改革・改善	改革・改善内容	老朽管が今後多くなることから、上水道単独工事のみではなく、他事業との計画を整合することで、よりコスト削減を図り事業費をおさえていく必要がある。		老朽管が今後多くなることから、上水道単独工事のみではなく、他事業との計画を整合することで、よりコスト削減を図り事業費をおさえていく必要がある。		老朽管が今後多くなることから、上水道単独工事のみではなく、他事業との計画を整合することで、よりコスト削減を図り事業費をおさえていく必要がある。		老朽管が今後多くなることから、上水道単独工事のみではなく、他事業との計画を整合することで、よりコスト削減を図り事業費をおさえていく必要がある。				
	施策の柱等の重点化	重点化する施策の柱	1		1		1		1			
		重点業務	1		1		1		1			
理由	上水道施設の耐震化を進め、災害に備えた安定供給の確保を図る必要がある。		上水道施設の耐震化を進め、災害に備えた安定供給の確保を図る必要がある。		上水道施設の耐震化を進め、災害に備えた安定供給の確保を図る必要がある。		上水道施設の耐震化を進め、災害に備えた安定供給の確保を図る必要がある。					

作成担当者	両角 敏行	両角 敏行	宮下 晶弘	宮下 晶弘	
最終評価責任者	篠原 尚一	篠原 尚一	篠原 尚一	岩崎 研二	
最終評価年月日	2019年5月31日	2020年7月10日	2021年5月28日	2022年5月30日	